



筑波大学人間学群

障害科学類

College of Disability Sciences 2023
School of Human Sciences, University of Tsukuba



障害を理論的・科学的に探求する。
共生社会の実現に貢献する。



多様な学問の融合から、新たな学問へ そして社会に貢献する人材育成へ

教育目標

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関する障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身につけ、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。

コンセプト

障害科学類は、障害を探究し、人間の本質を探究し、人類と社会に貢献する人材を育てる、わが国では他に類を見ないユニークな学類です。障害のある人々への具体的なサポート、その基盤となる基礎的な研究、そして人間の本質そのものを探究します。

特徴

- ・学生の関心や目標に応じた**3つの履修モデル**
- ・**特別支援学校教員免許状**では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）に関する免許の取得が可能
- ・**社会福祉士国家試験受験資格**の取得が可能
- ・**教職免許** 特別支援学校／高校（福祉）／その他、中学校・高校の教科

目次

障害科学類の教育目標	27
障害科学類のコンセプトと特徴	27
学類長あいさつ	28
障害科学の歩み	28
3つの履修モデルと取得可能資格	29
4年間の履修の進め方	30
教員紹介	31
研究室紹介	32
障害科学類生による授業・学生生活の紹介	33
海外留学・研修	35
卒業後の進路	37
進路実績	37
附属学校・関連組織	39
入試情報・高校生のための大学説明会	40

学類長あいさつ

宮本昌子



障害科学類をご案内する本ページへようこそ！ご覧いただき、ありがとうございます。「障害科学」というと、どういう分野なのか、イメージが湧きにくいかもしれません。様々な学問領域の中では比較的新しく、「障害」というものを教育学、心理学、生理学、社会福祉学等を複合させて考える分野です。その土台として特別支援教育（特殊教育）学が歩んだ歴史がありますが、「障害科学」「特別支援教育学」「社会福祉学」の3つのモデルを中心に学ぶことができるよう科目が設置されています。

学生のみなさんは非常に柔軟な発想や思考を携え、大学生活を楽しみに入学されることだと思います。「障害」というと一般的には深刻で辛い側面を思い描かれることが多いと思いますが、日本のように少子高齢化社会を迎えた成熟した社会では、頭を柔らかくし、弱いところだけでなく強みに注目し、逆転の発想で世の中の仕組みを変えたり、問題解決をしたりする人材が必要になるでしょう。そして、この分野の学びには、相手の立場もよく理解できるような資質を持っていることが大変重要です。

障害科学類の4年間では、障害についての知識が深まるとともに、人間を観察する力や、様々な事象を多側面から捉え思考する力が身につくと思います。大学生活においては、健康で思う存分に学び、今しかできない経験を積んでほしいと願っています。

障害科学の歩み

1951年、わが国最初の障害児教育の専門学科である東京教育大学教育学部特殊教育学科が設置されました。1973年の筑波大学への移転を機に、特殊教育学科は心身障害学へと転換しました。心身障害学では、それまで学童期中心の障害児教育から、乳幼児から高齢期までの障害児・者の生涯に渡る総合的支援へと研究領域が拡大されました。さらに2007年、心身障害学は、障害科学に名称を変更し、教育学、心理学、医学・生理学、社会福祉学等を含め、障害の科学的解明と障害児・者の支援を目指す総合的な分野としてスタートしました。



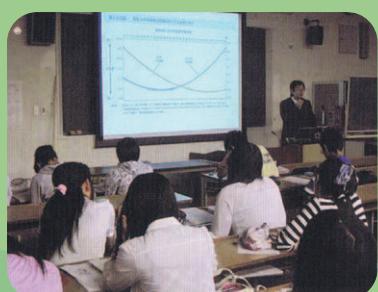
カリキュラムの特徴 3つの 履修モデルと 取得可能資格

障害科学類では、学修の参考のためにいくつかの履修モデルを示しています。履修モデルは、その通りに授業をうけなければならないものではありません。ただし、資格と関係する履修モデルは、必要科目が過不足なく含まれていますので、モデルが基準になるでしょう。履修モデルを基に、学ぶ人の希望と意欲に沿った学修計画を立て、自主的に学ぶことになります。



障害科学履修モデル

障害科学類の基本的な履修形態です。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、知的・発達・行動障害学、運動・健康・高齢障害学、音声・言語障害学、障害原理論、障害福祉学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎を修得します。



特別支援教育学履修モデル

わが国における特別支援教育に関する先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指します。特別支援教育とは、これまでの特殊教育において培ってきた専門性及び新たに求められる専門性に依拠して、障害がある児童生徒はもとより、さらに地域における発達障害などの教育的ニーズに応じた指導・支援を行うという、いわば新たな学校教育の枠組に基づく教育といえます。特別支援教育学履修モデルでは、障害科学類の充実した人的資源を活用して、特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、履修者に特別支援教育に関する広い教養と深い専門性を身に付けさせることを意図しています。障害科学類では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）すべてを担当できる特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。



社会福祉学履修モデル

社会福祉学を探求するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。



1年

障害科学履修モデル

4年

共通科目

人間学、体育、外国語、情報

専門基礎科目

障害科学Ⅰ・Ⅱ、
障害科学実践入門、
障害原理論Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ、
Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習

専門科目

自閉症スペクトラム障害臨床実習、
重複障害の理解と支援、
聴覚障害とリテラシー、
高齢障害学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、
日本の障害科学、など

関連科目

心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、
キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど

1年

特別支援教育学履修モデル

4年

共通科目

人間学、体育、外国語、情報

専門基礎科目

障害科学Ⅰ・Ⅱ、
障害科学実践入門、
障害原理論Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ、
Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習

専門科目

特別支援学校教諭免許取得に必要な専門科目、
視覚障害教育概論、聴覚障害児の教育と指導法、
運動障害教育学、健康障害の指導法、
知的障害学校教育論、特別支援教育実習など
卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など

関連科目

心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、
キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど、
中学校・高等学校教諭免許（教科）取得のための学群内外の科目の履修など

1年

社会福祉学履修モデル

4年

共通科目

人間学、体育、外国語、情報

専門基礎科目

障害科学Ⅰ・Ⅱ、
障害科学実践入門、
障害原理論Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ、
Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習

専門科目

社会福祉士国家試験受験資格取得に対応した専門科目、
相談援助の理論と方法、相談援助の基礎と専門職、
ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など
卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など

関連科目

心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、
キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど

障害科学を学ぶモチベーションを高め、学びの基礎を整える

1年

障害科学の基本的な原理を学び、実践現場を見学・参観し、障害科学探求のモチベーションを高めます。
また、障害科学を構成する専門分野を知ることで、障害科学を全体的に理解できるようにします。

2年

基礎的能力を身に着け、将来の進路を考える

3・4年

各専門分野の基礎を学び、障害科学の方法を知ることで、自らの修学の到達目標や卒業後の進路を志向します。

障害科学の研究・基礎的実践技術の習得

さまざまな演習や実践を通じて、障害科学の研究手法の基礎を習得したり、自分の選んだ進路に応じ、特別支援教育、社会福祉、発達臨床などに関する実践能力の基礎を身に着けます。
また、こうした研究・実践技術に関するカリキュラムは、大学院人間総合科学研究群（前期課程）へ進学し、6年間で習得することを想定して作られています。是非、大学院進学を志してください。

**障害科学全般
にわたる
基礎的能力の養成
4年間の
履修の
進め方**

教員紹介

多様な障害種別、研究手法を網羅するスタッフ陣



視覚障害学

- 柿澤 敏文 弱視児(者)の視覚特性とICT、視覚障害原因、アジア・アフリカの視覚障害
小林 秀之 視覚障害児の学習活動に対する教育的支援
佐島 毅 視覚障害学、重複障害児の心理と教育
和田 恒彦 理療(鍼、灸、あん摩マッサージ指圧)科教育、スポーツ障害、障害者スポーツ
工藤 滋 視覚障害者のあん摩マッサージ指圧、鍼灸課程における学習教材、触察指導

- 徳竹 忠司 視覚障害者への理療技術指導法・東洋医学的物理療法(理療)の生体反応
濱田 淳 理療教育に関する研究、泌尿生殖器系疾患に対する鍼治療
宮内 久絵 視覚障害教育、インクルーシブ教育
ラミチャネ・カマル 諸外国における障害と教育、雇用の連関に関する研究

聴覚障害学

- 鄭 仁豪 聴覚障害児・者の言語・認知・社会性の発達に関する心理学的研究
原島 恒夫 聴覚障害児(者)の聴覚情報処理、早期教育に関する臨床発達心理および環境論的アプローチ

- 左藤 敦子 聴覚障害教育、聴覚障害児の言語・認知の発達に関する心理学的研究

知的・発達・行動障害学

- 柘植 雅義 特別支援教育推進に関する教育学的・行政学的研究／学校における指導・授業に関する教育学的・心理学的研究
熊谷 恵子 学習障害児の学習支援(算数困難等)に関する研究、発達障害児の感覚過敏に関する研究
野呂 文行 発達障害児の行動心理学的研究
岡崎 慎治 知的障害児及び発達障害児の注意機能に関する生理心理学的研究
小島 道生 知的障害児及び発達障害児の自己に関する研究、ダウントン症児者の発達支援に関する研究

- 米田 宏樹 知的障害教育、インクルーシブ教育、学校・施設・カリキュラム開発史の研究
佐々木銀河 大学における障害学生支援、発達障害児者に対する支援技術、スタッフトレーニング・マネジメント
小泉 愛美 知的・発達障害児の言語・コミュニケーション発達

運動・健康・高齢障害学

- 竹田 一則 障害児の医学・生理学・心理学的研究、障害学生支援に関する研究
川間 健之介 運動障害児者の心理、指導法の研究

- 山田 実 加齢に伴う身体機能低下の予防(介護予防)に関する研究

音声・言語障害学

- 宮本 昌子 小児の言語発達障害に関する研究、吃音、clutteringなど発話の非流暢性障害に関する研究

- 三益 亜美 先天性・後天性の読み書き障害に関する認知神経心理学的研究

障害原理論

- 岡 典子 障害者教育・福祉に関する歴史研究、障害と社会・文化に関する研究、東アジアのインクルーシブ教育に関する比較研究

- 森地 徹 当事者の視点を生かした障害者の地域生活支援に関する研究
大村 美保 障害者の雇用・就労障害者の雇用・就労、所得保障、および地域生活支援
河野 穎之 認知症やLGBTQを含む多様な属性の人と社会に関する心理・社会的研究、ダイバーシティ&インクルージョン
矢部 愛子 聴覚障害者のコミュニケーション情報保障、ろう学・障害学の混合手法による研究

障害福祉学

- 小澤 溫 障害者に対するケアマネジメントとその評価に関する研究
八重田 淳 職業リハビリテーションカウンセリングに関する研究
山中 克夫 認知症の人のための心理・社会的アプローチ
名川 勝 障害者の地域生活支援と権利擁護、知的障害者等の意思決定支援、大学における障害学生支援



研究室紹介

専門家、研究者としてのキャリアにつながる充実した研究環境

柘植研究室



私たちの研究室では、知的障害のない発達障害、知的障害、行動障害、それらを重複する場合に关心があり、その理解や指導・支援に関する研究を行っています。また、より広く、特別支援教育やインクルーシブ教育、制度やシステム、障害のない人への対応、保護者への支援、一般市民の理解啓発等、「周りの環境」に関する研究も盛んです。研究対象は、就学前から学童期、青年期、成人期まで様々で、海外の学校や施設をフィールドにした研究や国際比較研究も。研究方法は、事例研究、調査研究、実験研究、質的研究、文献研究等様々。そして、研究成果が如何に実践の場で活用できるか(Evidence-Based Practice and Policy)という点を大切にしています。研究室の構成員は、学類(学部)、大学院博士課程の前期・後期、研究生、研修生と多彩で、年齢も国籍も様々。研究室のセミナーは、毎週全員が一堂に会して行い、個別の研究相談もしています。研究室は、お互いを認め合い寄り添い合う雰囲気で満ち溢れ、その上で、研究は一生懸命にきちんと！構成員の人数も多いことから、仲間同士の教え合いや研究上の悩み事相談などもなされています。

大村研究室



私たちの研究室では、障害のある人の地域生活支援に関する研究を行っています。具体的には、障害者の雇用・就労に関する研究や、障害者虐待防止における基礎自治体の体制整備に関する研究、非行・犯罪行為のある障害者への支援などが最近のテーマです。このような、社会における平等、参加、貧困、社会的排除、虐待、地域での孤立といった現代社会における諸課題の多くは、社会福祉学が対象としています。週1回開催される研究会では、それぞれの知識や能力を持ち寄り、よりよい研究に洗練できるよう、質問や指摘、意見交換を活発に行ってています。また、見学・訪問、研修会への参加、経験のある現場職員との意見交換など、実践現場とのつながりを大事にしています。人の生活や社会は複雑であり、標的を明確にして問題構成を浮かび上がらせるのは決して簡単なことではありませんが、苦労してまとめた研究成果をもとにして新たな政策展開が行われるときには、非常に大きなやりがいと達成感を感じます。一つひとつの研究はささやかなものかもしれないが、障害のある人たちやその支援者・機関に対して研究を通じた貢献ができるよう、日々の研究活動を行っています。

岡崎研究室



私たちの研究室では、注意欠如多動症(ADHD)などの発達障害のあるお子さんの認知発達とその評価の方法、支援の方法について研究を行っています。大学に相談に来られるお子さん等にご協力頂き、認知やその発達にどのような特徴があるのかを調べるために、検査やテストを用いたり、一緒に学習や遊びを通した支援について考えたりするとともに、その開発にかかるような基礎的な実験を行ったりもしています。また、行動からではわかりにくい認知の働きを調べるために、脳の電気的活動を測定(脳波)したり、脳血流の測定をしたりもしています。このように、障害のある人々に関する基礎研究と応用研究を通して、知的発達や認知発達の特徴や独特さを知り、理解や支援につながるような活動を行っているのが研究室の特徴といえるでしょう。学生の皆さんも基礎だけ、応用だけではなく、それぞれの研究活動に関与しながらご自分の研究を進めています。表面的には特徴や困難さがわかりにくい発達障害の理解や支援に興味がある方は、ぜひ障害科学類での学びを深めていただきたいと思います。

障害科学類生による授業・学生生活の紹介

卒業研究

2020年度卒 郡司和香



私は大学4年間、障害科学類で障害5領域について様々な授業や実習を受け、自分自身の興味を広げていく中で、特に視覚障害に興味を持つようになりました。卒業研究は約1年間かけて取り組んでいく研究であるため、研究室選びをする際も、興味を持った研究室に何度も見学に行き、先生方とたくさん相談しながら慎重に決めました。

た。その際に、どの研究室の先生も、私がどのようなことに興味があるのかということについて熱心に話を聞いてくださり、多くのアドバイスをいただくことができました。そのように研究室訪問を重ね、視覚障害を専門としている柿澤敏文先生のもとで、視覚障害女性がマイクをする上でどのような困難を抱えているのかということについての実態調査を行いました。卒業研究を通して、対象者にアポをとり日程調整をしてインタビュー調査を行うという貴重な経験をすることができました。実際に視覚障害のある方々にお話を伺うことができたことも私の内で大きな財産となったように思います。卒業研究を行うにあたって、最初のうちは、漠然と視覚障害について研究ができたらいいな、という考えがあつたくらいで、

先輩方のように論文を執筆することができるのか、不安を抱えていました。しかし、研究の進め方や分析方法について行き詰まってしまった時や不安なことがあったときは、その都度、指導教員の先生や同じ研究室に所属する先輩方、同期の友人と協力し合いながら研究を進め、意義のある経験となりました。卒業論文が完成した時の達成感は忘れられません。障害科学類は教員の研究分野も幅広く、きっと皆さんのやりたい研究ができると思います。是非、皆さんも障害科学類で自分の興味の幅を広げてくれるような研究をしましょう！



講義と実践の双方から、広く、深い学びを

4年 苦米地柚季



全国で唯一の障害科学類を有する筑波大学では、専門的な講義と同時に、障害学生支援や附属特別支援学校との関わりからも多くを学ぶことができます。私もピア・チーフとして情報支援に携わったり、附属特別支援学校の生徒に大学を案内する活動に参加したりしています。

また、所属する手話サークルとスポーツ支援サークルの活動を通じ、筑波技術大学の学生や知的障害のある青年との交流も楽しんでいます。放課後等デイサービスやヘルパーのアルバイト、学習支援団体でのボランティアも始めました。様々な活動に挑戦するなかで、大学での講義と実際の経験の双方から学びを深められ、日々充実しています。大学内外にこうした環境が整っている点、ネットワークによって多様な活動に参加できる点も障害科学類の魅力だと思います。また、総合大学である筑波大学では、他学類の授業の履修や学生との交流も容易です。私も国際系学生団体に所属し、異分野の仲間との活動から、新たな知識を得ると共に、途上国の障害者支援について視野を広げることができました。講義と実践の双方から広く・深く学べる障害科学類と一緒に様々な挑戦をしませんか？

相談援助の理論と方法I

4年 片庭希海



私は社会福祉士の資格を取得して福祉に携わる仕事に就くことを目指しており、その中で相談援助の理論と方法Iという授業を受講しました。この授業では「ソーシャルワークとは何か」ということがテーマの1つとして設けられており、ソーシャルワーカーとして支援するとはどのようなことなのか、といった根本的なことについてじっくり考

えることができます。特に、個人だけでなく家族やグループ、地域を対象としたソーシャルワークもあるという学びは、ソーシャルワークに関する自身の考えを深めるきっかけになったと感じています。また、講義形式の授業ではあるものの、グループワークが多くあり、事例などについて検討しながら他の受講生と考えを共有することができました。社会福祉学履修モデルの授業では、その他にもグループワークなどを通して他の学生と話し合う機会が多くあり、様々な考え方や価値観に触れて刺激を受けることができる点が魅力だと思います。



やりたいことが出来る環境

4年 高岡 杏



私は重度の運動障害を持っていて、授業は運動障害支援チームからピア・チューターを派遣してもらい、ノートテイクを頼んでいます。また、ヘルパーを利用して学生宿舎のバリアフリーが整っている部屋で一人暮らしをしていたり、周りの方々に助けてもらしながらの大学生活ですが、とても楽しいです。私は教職課程なので特別支援教育につい

てや、ほかの学群に教科の科目を取り行っています。教職以外の福祉系の科目も取ることができるので、自分の興味の幅が広がることが障害科学類の魅力だと思います。先生に教えていただいた交流会などに参加してみることも自分が知らなかつた世界が発見でき、おすすめです。また、私は学園祭実行委員会の委員長を務めていて、全学規模で色々なことを見ることは大変な部分もありますが、一生に一度の経験だと思うので楽しみながらやっています。このように大学生活はやろうと思えばなんでも出来るので、みなさんも色々なことにチャレンジしてみてください！

充実した学びを仲間とともに

4年 鶴田絢子



皆さんこんにちは！障害科学類は、障害に関する様々な学問を専門とする多くの先生方がいらっしゃるため、障害を中心として、教育、福祉など様々な方面からアプローチできる環境が整い、さらに興味があることを深めて専門的に学ぶことができるユニークな学類です。私は特別支援教育を中心に学んでいますが、各領域について基礎か

ら専門まで学ぶ講義はもちろんのこと、筑波大学にある5校の附属特別支援学校の先生方から学校での実践を踏まえた講義も受けています。各領域の類似点、相違点など多くの気づきがあり、充実しています。また、ユニークな学類であるためか、全国各地から仲間が集まります。各自に考えがあり、広くアンテナを張っている人が多いです。仲間から刺激を受け、時には議論することも。このような仲間との出会いがあることも障害科学類の良さであると思っています。皆さんも障害科学類で学んでみませんか？キャンパスのどこかでお会いできることを楽しみにしています。

筑波大学は全国の障害学生支援の中心

4年 小林愛佳



筑波大学には障害学生が多く在籍しており、彼らの学生生活をサポートするために学生が主体の障害学生支援活動が行われています。講座を受講した学生が支援活動を行う「ピア・チューター制度」がその一つです。支援活動の内容は様々で、ノートテイク、PC要約筆記、資料のテキストデータ化などを障害学生のニーズに応じて行っています。障害学生自身もピア・チューターとして支援チームの運営やピア・チューターの養成に参加するなど、一般学生と障害学生が協力して活動しています。私はコーディネーターという、支援を必要とする障害学生と支援可能な学生を調整する立場から障害学生支援活動に携わりました。その中で、ピア・チューターが制度として設けられていることで、障害学生にとって学びやすい環境を目指すことと支援学生が無理せず支援活動を行うことが両立されていると感じました。筑波大学の充実した障害学生支援にも興味を持っていただき、いつかみなさんと一緒に活動できたら嬉しいです。

障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ

3年 加藤悠介



私は現在障害科学履修モデルを選択し、障害に関する知識や技能を習得し自らの糧とするために日々研鑽を積んでいます。1年次の秋学期ABモジュールに受講した『障害者教育基礎理論』はIとIIに分かれています。Iでは、障害のある子どもへの教育的アプローチが長い歴史の中でどのように始まり、発展していったのかを世界と日本という2つの側面から概観します。障害の種類によって、教育が始まった時期・方法が発展した時期が大きく異なることを知ることができます。IIでは、主に戦後日本の障害児教育の発展について学んでいきます。通級による指導制度やインクルーシブ教育システムについても多く触れます。どちらの授業も、多くの資料や論文を参考に進められますが、映像を参照することもありました。受講を通して、教育と時代背景・人々のかかわり方にについて深く考えることができます。担当のお二人の先生も、ユーモラスかつ丁寧に教えてくださいます。授業を受ける中で、さまざまな意見や考えが生まれてくると思います。それをきちんと言葉にし、まとめることが大切です。障害に興味のあるみなさん、私たちと一緒にもっと障害を知り、学びを深めてみませんか？



自分たちの可能性に気づく学生生活

3年 増村 裕



私は 2020 年度入学生で、遊びも勉強も思う存分できる筑波大学での生活を楽しみにしていました。そんな中、新型コロナの影響で入学式は中止になり、授業もオンラインになりました。入学式は大学生としての象徴的な出来事です。中止されたことで、気持ちが置いて行かれたような状態になり、私は、クラスの仲間数人と、入学式

を自分たちでつくれないかと考えました。ただ、大学に入ってすぐのことだったので自分たちがどのように動いたらよいのか、何もわからない状態でした。そんな中、T-ACT という学内の組織を知り、T-ACT の先生方からまず何をしたらよいのか、どのようにチームを運営していくかなどを教えていただきました。筑波大学には、自分たちが企画のプランナーになったり、オーガナイザーになったり、実際にそれを運用するボランティアになったり等、主体的に活動できる環境が整っています。自ら体験し、自分たちの可能性に気づく、そんなキャンパスライフ、一緒に送ってみませんか。

英語で積極的にディスカッションする授業 「Current Topics in disability Sciences」

3年 Lam Yan Tung



Current Topics in disability Sciences の授業では、インクルーシブ教育の概念や意義について触れ、日本における障害教育福祉を踏まえ、海外の状況と比較しながら学びます。この授業は主に英語で行い、先生をはじめとして多くの留学生がいるため、この授業ならではの文化的背景の異なる環境で、互いの意見を自由に交わす貴

重な時間だと考えます。このような異文化ディスカッションを通して、多様な価値観に触れて自身の先入観を問いかね、視野を広げる機会だと思います。今年度は新型コロナウイルスの影響により、対面授業に代わるリアルタイムの Zoom ディスカッション及びオンデマンド型の授業を併せたハイブリッドの形で授業を実施しました。

最初は「英語でどう言えばいいのかがわからない」、「人前で英語で発表するのは無理」など、英語に不安を感じる人が多いと思いますが、英語は話せば話すほど上達するため、次第に英語で自分の考えが伝えられるようになると思います。授業中には間違いに怯えず、自信を持って積極的に英語でディスカッションを進めてみてください!応援しています!

障害科学類の魅力

3年 渡辺奈桜



障害科学類は、様々な障害について、福祉・教育・医療等の面からアプローチすることができます。私は現在社会福祉士取得を目指しており、福祉についての幅広いことを学べたり、グループワークを通じた実践的な学習ができたりする授業をとっています。福祉以外にも障害科学類で開講されている特別支援教育や原理論のような授業をとり、障害について考えています。

また筑波大学は総合大学であり、所属する学類以外の授業を受講することができます。他学類の授業をとることで教養を身に付けられたり、障害についても違った観点から学べたりします。

私個人としては放課後等デイサービスでのバイト、アカペラサークルへの所属など、充実した日々を送っています。また、T-ACT として障害理解のためのボードゲーム作成に参加したり、人間フィールドワークという模擬研究室での体験で論文講読や福祉施設見学をしたりしました。たくさんの有意義な体験をすることができたと思っています。

障害科学類は自分自身と向き合い、興味関心のあること、やりたいことに対して夢中で取り組むことができる学類です。互いに高め合える仲間、熱心に指導をしてくださる先生方とともに、夢に向かっての第一歩を踏み出してみませんか?



海外留学・研修

障害科学類では、筑波大学や人間学群で交流協定を結んでいる海外の大学に留学する機会を設けています。協定校への留学は以下の大きなメリットがあります。

- ・留学期間は、本学での在籍年限に換算される
- ・授業料相互不徴収に関する協定を締結している協定校であれば、相手大学での授業料が免除
- ・留学先で履修した単位が本学の卒業条件となる単位に認めることができる
- ・学内外の奨学金に申請可能

協定校の例：ドイツ・ミュンヘン大学、米国・南インディアナ大学、韓国・釜山大学他多数。
詳しくは HP (<http://www.kokuren.tsukuba.ac.jp/GP/gplist.html>) をご覧ください。
これ以外に、海外研修にも積極的に参加しています。



卒業後の進路

各履修モデルと 取得可能免許・資格

障害科学履修モデル

本学には障害科学に関するわが国で最も整備された大学院（人間総合科学研究科）があり、学類卒業後には進学を勧めています。近年、障害関連職種での専門化が進み、大学院修了資格を有するより専門性の高い人材が求められています。進学以外の進路としても、一般社会での障害者の活躍が進み、そのための支援の充実が広がる中で、障害に関連した種々の職種の中で専門家としての知識・技能の発揮が期待されています。教職課程を履修すれば、教員免許状の取得も可能です。大学院では、学校心理士、臨床発達心理士などの申請資格を取得することが可能であるほか、自閉症スペクトラム支援士の実践歴が得られます。

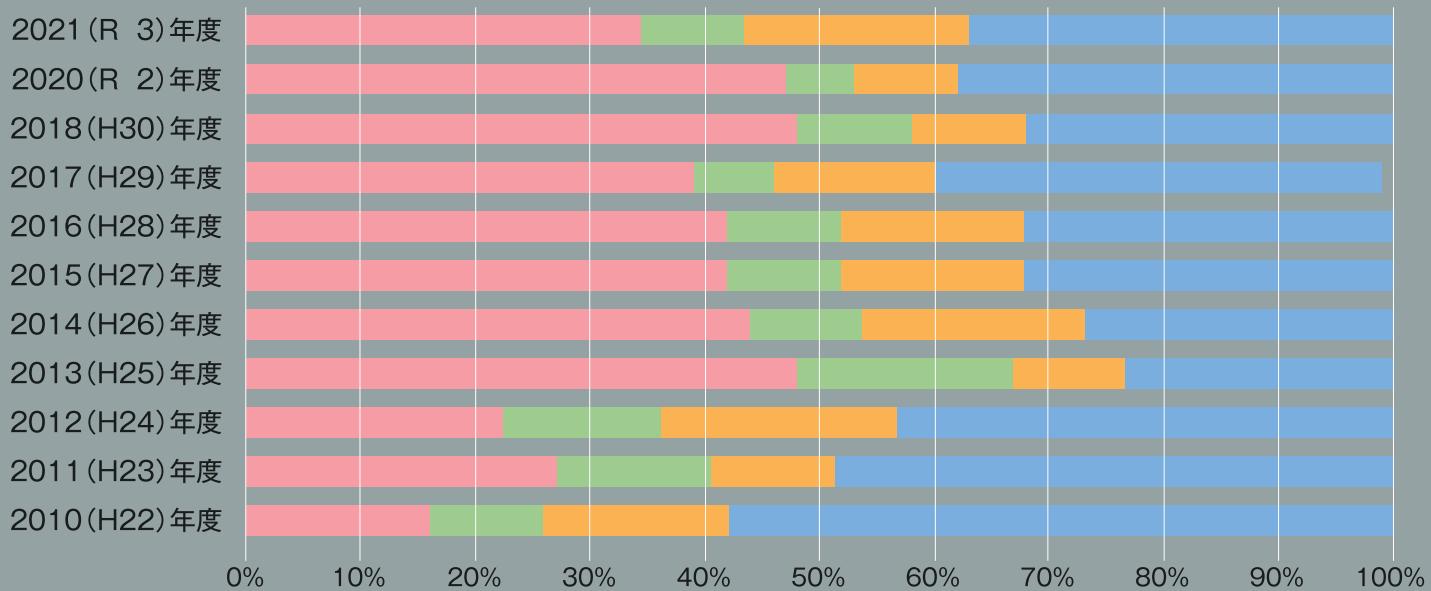
特別支援教育学履修モデル

主として特別支援学校及び小・中学校などの特別支援学級の教員のほかに、国家公務員、地方公務員に就くことを想定しています。また、本学大学院（人間総合科学研究科）への進学も勧めています。学類と大学院との一貫したカリキュラムの履修により、進学者は専修免許を取得し、より専門性の高い教育者・研究者となることを目指すことができます。

社会福祉学履修モデル

指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。福祉系の国家公務員・地方公務員、社会福祉協議会、教員、障害者・高齢者・児童等の福祉専門職、シルバーサービス関連の一般企業等、福祉の専門性を生かした職種の中で、専門家としての知識・技能を発揮することが期待されています。もちろん、本学の大学院（人間総合科学研究群）への進学も可能です。

進路実績 主な進学・就職先



■ 企業・団体

■ 教員

■ 公務員

■ 進学

大学院等

- 筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群
- 東京大学大学院教育学研究科
- 東北大学大学院医学系研究科
- 一橋大学国際・京都大学文学研究科 ほか

教員

- 各県の特別支援教育の教員として多数採用

公務員

- 厚生労働省・各県庁職員（多くが福祉職）として多数採用
- 保護観察官
- 家庭裁判所調査官 ほか

企業・団体

- 三井住友銀行 りそな銀行 常陽銀行
- スターツコーポレーション
- 東急リゾート、株式会社オリエンタルランド、株式会社パナソニック
- 全日本空輸株式会社、東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）
- 明治図書出版社株式会社
- 積水ハウス、セコム株式会社
- 社会福祉法人東京都社会福祉事業団
- 全国社会福祉協議会、各県・市社会福祉協議会
- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
- 各社会福祉法人・各医療法人 ほか

学類生の大学院進学先

筑波大学大学院

人間総合科学研究群

障害科学 学位プログラム

- 博士後期課程(博士)
- 博士前期課程(修士)

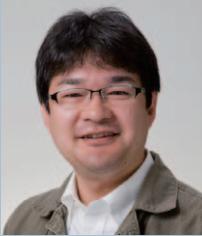
ニューヨーク
サイエンス
教育学
心理学
その他

その他

他
大学
大学院

障害科学類

平成 5 年度卒 武居 渡 ■ 大学教員



筑波大学人間学類に入学し、その後大学院心身障害学研究科へ進み、その後、金沢大学教育学部へ赴任しました。卒論では、手話も日本語も習得していない離島に住む就学経験のない高齢ろう女性の自発した身振りを分析するために、このろう者と 2か月間ほど一緒に生活しました。自分の手で何かを明らかにする面白さに惹かれ、大学院に入学しました。筑波では自分の専門の障害だけでなく、あらゆる障害について学ぶことができます。

現在大学で勤務をしていると、私の専門である聴覚障害だけでなく、他障害についても助言を求められたり、学校へ呼ばれたりすることがあります。その時、様々な障害について学んだ知見が役に立っています。また、大学では学生への教育や研究だけでなく、様々な社会貢献も求められます。私は 2015 年度から 2017 年度まで、NHK の「みんなの手話」の監修を引き受け、手話について社会に何を知ってほしいのかを考えるいい機会になりました。何より大学では経験できない世界をのぞくことができました。大学ではぜひ自分の専門を深く学んでください。そして他障害の研究をしている先生や同級生とたくさん議論してください。きっとその経験が卒業後に自分の血や肉になると思います。

平成 26 年度卒 伊藤 詩織 ■ 特別支援学校教員



私は千葉県にある聴覚に障害のある生徒達が通う特別支援学校で英語を教えています。聴覚に障害があるというと、全く耳が聞こえない生徒に教えている印象を与えるかと思いますが、実状は異なります。残っている聴力を活用する生徒やほとんど耳が聞こえない生徒など様々な生徒と一緒に学習しています。そのため、それぞれの生徒に合った表現方法や伝達手段が必要となり、日々の工夫が欠かせません。どうすれば英語を理解して好きになってもらえるか、と考えながら授業を行っていますが、試行錯誤の毎日が続いています。

しかし、このような教員生活中でとても役に立つことがあります。それは障害科学類で特別支援教育に必要な 5 領域（知的障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱）の内容を全て学ぶことができたことです。現在の特別支援教育は生徒一人一人のニーズに応えることが求められており、多様な視点から生徒を見る目が必要です。例えば授業一つを考えるだけでも、聴覚という観点からだけではなく、視覚のこと、学習障害に関することなど他の障害領域と合わせて考えた方がよい場合が多くあります。その際、障害科学類での幅広い学びが、専門だけでは見えてこなかった可能性を示唆し、新しい授業の展開を模索するきっかけを教えてくれています。また、障害科学類では学生の時から実際の教育現場を見る機会がたくさんありますので、理論だけでなく実践的に学ぶことができます。そのおかげで生徒自身を見ることが大切であるという姿勢を作ることができ、今でも生徒と向き合うことを第一に生徒と関わっています。

今思い返すと、このように障害科学類での学びは、特別支援学校で勤務する私に大切なことを教えてくれるだけではなく、私を支えてくれる糧となっていると言っても過言ではなく、本当に魅力的な学類だと感じています。

平成 19 年度卒 田原 敬 ■ 大学教員



私は現在茨城大学で主に障害児生理に関する授業や聴覚障害に関する授業を担当しており、将来特別支援学校の教員を目指す学生の指導にあたっています。また、聴覚障害者のきこえに関する実験を中心とした研究活動を行っています。障害科学類には 2つの特色があると思います。まず、自分の専門領域について非常に深く学べるということです。障害科学類では、障害領域ごとに先生方が複数名ずついらっしゃるので、1つの障害についても様々な角度から学ぶことができます。私は聴覚障害を中心に学んでいましたが、聴覚障害児の読み書き能力に関する内容から、聴覚障害児のきこえや発音に関する内容まで、とても幅広く学ぶことができました。また、防音室や聴力検査機器などの設備も充実しており、不自由なく研究活動に取り組むこともできました。大学に在籍していた当時は当たり前だと感じていましたが、今振り返ってみると、自分の専門領域についてここまで深く学べる環境は全国的にも非常に珍しいかと思います。その一方で、自分の専門領域以外についてもしっかりと学ぶことができるということも特色の 1 つだと思います。大学教員として働く中で、様々なニーズを持つお子さんと接する機会が増え、自分が学んできた聴覚領域以外の知識も必要となる場面が増えてきました。その際に、「これってあの先生が授業で話してたよな…」と思い出すことや、「友人がこのテーマについて研究してたよな…」と思い出すことが問題解決のヒントになることも少なくありません。知らず知らずのうちに他の障害に関する知識が身についたのも、障害について総合的に学べる障害科学類の学びの特徴だったと感じています。このように、障害について「広く・深く」学ぶことができるところが障害科学類の大きな魅力だと思います。

平成 22 年度卒 仲本 ひろ美 ■ 茨城県庁福祉職



現在、私は茨城県長寿福祉課で、介護保険に関する市町村への事務支援や介護従事者の研修業務に携わっています。茨城県でも、少子高齢化が進展する中で、高齢者の方が住み慣れた地域で安心した生活が継続して送れるような取組が求められています。また、行政として、高齢者だけではなく、児童・障害と広い福祉分野に携わることになります。以前、私は児童相談所に勤めていましたが、実際に子ども本人や保護者に会い、養護・虐待・非行等の相談に対応していました。例えば、虐待ケースであっても、その背景には、経済的な問題があったり、子どもに発達障害等の育てにくさがあったりと原因は様々であり、1つとして同じケースはありません。ケースに応じて、市町村・学校・病院・警察など多様な機関と連携をして対応していく必要があります。そして、私自身が感じることは、どの分野においても、「何かしてあげたい」という「気持ち」だけではなく、実際に制度の中で「どのようなことができるのか」という「広い知識」が必要になります。

私は障害科学類で、社会福祉モデルを履修し、社会福祉士の資格を取得しましたが、熱心で優しい先生方の指導のもと、障害に関する知識や支援の方法を身につけることだけではなく、教育・心理・福祉などの多領域についても学ぶことができました。また、履修カリキュラムにより、障害・福祉の枠を超えて、自分の興味のある他の学類の科目が履修できることも、特徴のひとつになります。

広く学び、様々なニーズに対応した支援ができる社会福祉士になれるということは、筑波大学の障害科学類ならではの魅力だと思います。

平成 20 年度卒 横井 麻里子 ■ 家庭裁判所調査官



大学卒業後、家庭裁判所調査官という仕事に就きました。家庭裁判所は、離婚など家庭内の紛争を解決する家事事件と罪を犯した未成年者の処分を決める少年事件を扱っています。これらの事件は、単に法的な解決だけでなく、その背後にある人間関係や環境を考慮した解決を図る必要がありますので、家庭裁判所調査官が、心理学や社会福祉学などの専門的な知識を生かしながら調査や調整をしています。

離婚紛争中の当事者や非行を犯した少年など、人生の岐路に立たされている人たちに向かうことになるので、私たちの関わり方によっては、家族の紛争解決や少年の更生の機会を失う可能性もあり、日々重い責任を感じています。一方で、彼らの人生を大きく左右する場面に立ち合い、関わる中で、紛争解決が見えたときや、変化を感じられたときはやりがいを感じます。

障害のある子どもの養育を巡って争いになる夫婦であるとか、非行の背景に子ども自身の発達障害があったなど、障害の知識が必要となるケースも多くあるので、大学で障害について一通り勉強したことが、今の仕事にも大きく役立っています。障害科学類は、とにかくさまざまな分野の先生方が揃い、総合的に障害について学ぶことができる賛美な環境にあります。そのため、自らの興味、関心に応じ、専門性を深めたり、広げたりすることができる、魅力的な学類であると思います。

附属学校 関連組織

附属学校

筑波大学には、11の附属学校のうち5つの特別支援学校があり、大学と連携して教育活動をおこなっています。見学や授業参観、そしてボランティアなどを通して障害のある子どもと彼らへの支援の実際について理解を深めることができます。



附属大塚特別支援学校（東京都文京区）
<http://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp/>



附属久里浜特別支援学校（神奈川県、横須賀市）
<http://www.kurihama.tsukuba.ac.jp/>



附属視覚特別支援学校（東京都、文京区）
<http://www.nsfb.tsukuba.ac.jp/>



附属聴覚特別支援学校（千葉県、市川市）
<http://www.deaf-s.tsukuba.ac.jp/>



附属桐が丘特別支援学校（東京都、板橋区）
<http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>

関連組織

以下の関連組織もあります。

- ① 附属学校教育局
<http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp>
- ② 教育開発国際協力研究センター
<http://www.criced.tsukuba.ac.jp>
- ③ 心理・障害相談室（筑波キャンパス）
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/IDS3/counsel/outline.html>
- ④ ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（アクセシビリティ）
<http://dac.tsukuba.ac.jp/shien/>

筑波大学では全学で100人以上の障害のある学生が学んでおり、トレーニングを受けた学生が「ピア・チューター」として支援活動に携わっています。入学式や大学説明会などでもピア・チューターが活躍しています。



ピア・チューター養成講座の様子

入試についての問い合わせ先

① 筑波大学ホームページ(入試情報)

<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>

② 筑波大学教育推進部入試課

TEL: 029(853)6007

高校生のための大学説明会

毎年8月と3月に、筑波大学において高校生のための大学説明会を行っています。全国から多くの高校生が集まって、プレセミナーを通して障害科学を実体験します。最新の情報は障害科学類ホームページのトピックをご覧ください。



筑波大学までの交通

■つくばエクスプレス:

- ・秋葉原駅からつくば駅まで最速45分
- ・つくばセンターから「筑波大学中央」行バス(約10分)
- ・「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(約10~15分)

■JR常磐線:

- ・ひたち野うしく駅 バスター・ミナル東口から「筑波大学中央」行バス(約45分)
- ・荒川沖駅 バスター・ミナル西口から「筑波大学中央」行バス(約35分)
- ・土浦駅 バスター・ミナル西口から「筑波大学中央」行バス(約30分)

■高速バス:

- ・東京八重洲南口から「筑波大学」行高速バス(約75分)

■自動車:

- ・常磐自動車道「桜土浦」I.C.下車、「東大通り」を北上し、筑波大学中央入口 到着(約15分)



筑波
大学

● 筑波大学中央

● つくばセンター

● つくば駅

● 秋葉原駅

● 上野駅

● ひたち野うしく駅

● 荒川沖駅

● 土浦駅

● 桜・土浦 I.C.

● 水戸

● 東京

● つくばエクスプレス

● JR常磐線

● 高速バス

● 自動車



College of Disability Sciences
School of Human Sciences, University of Tsukuba

2023

筑波大学ホームページ(入試情報)
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>

入試についての問い合わせ先 筑波大学教育推進部入試課

人間学群障害科学類
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/ids/shougai>